

# 「現場に出向く」強調

「(JAと共に)現場に出向き、担い手や地域の声に耳を傾け、課題や要望でできるだけ応えていきたい。近くに来た際は、ぜひお立ち寄りを」。JAグループ山形地域・担い手サポートセンターの阿部芳徳監理役が力を込めた。若い村形康太さんが、JAグループ新規就農応援事業について説明し、引き続き積極的な活用を熱く呼び掛ける。

大江町中央公民館で13日開かれた町就農研修生受入協議会(OSINの会)の2017年度総会。サポート

## 大江町OSINの会に初出席

トセンターの職員が初めて出席した。2人とも、新調されたばかりのセンター統一の作業着姿。現場に寄り添う姿勢を示す。就農研修生と受け入れ農家でつくるOSINの会は13年4月に設立。町やJAさがえ西村山などが支援し、これまで9人が独立就農を果たした。耕作面積は14haを超える、耕作放棄地解消や町の人口増にも貢献。17年度も渡辺誠一会長(51)ら11戸の農家が、東京都出身の萬利乃光康さん(37)ら5人の研修生を受け入れる。JAグループ新規就農応援事業について説明し、引き続き積極的な活用を熱く呼び掛ける。

大江町中央公民館で13日開かれた町就農研修生受入協議会(OSINの会)の2017年度総会。サポート

### 地域 担い手 サポ・センだより

### J A グループ 山形

はじめ、訪問活動や営農技術の継承、担い手の確保、産地づくりの提携活動などに当たる。センターの取り組みを通して、地域と担い手の今を追う。

阿部さんと村形さんは「情熱と活力を感じた」と話し、今回の出席を機に、支援に力を入れていく考えを新たにした。



15年10月に発足したJA

グループ山形地域・担い手

サポートセンターが、4月

から体制を一段と強化し

た。中央会、全農山形、共

済連山形、農林中央金庫山

形支店からの職員18人全員

が専任だ。経営サポートを



「サポートセンターをよろしく」とあいさつする阿部監理役(後列右から2人目)と村形さん